

弘前第一養護学校 SDGs通信

SDGs通信 第4号は、高等部の取り組みをお届けします。

高等部では、SDGsの視点を実際の仕事や社会の仕組みと結び付ける学習として展開してきました。

作業学習の中で体験・実践を通して、「自分たちにできること」を考える学びを進めました。

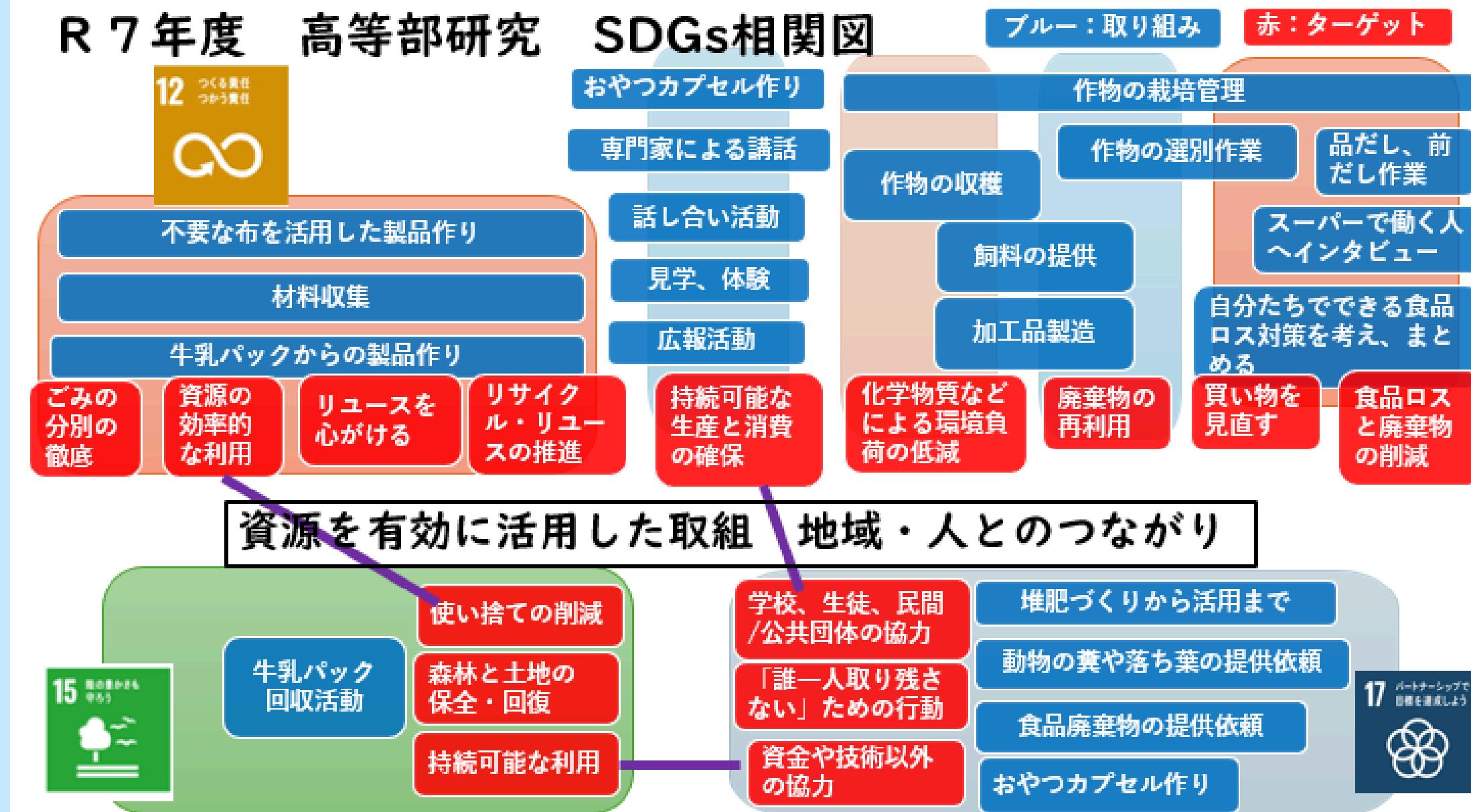
今回の通信では、その様子と作業学習で取り組んだ生徒たちの学びの姿をご紹介します。

研究授業一覧 高等部

研究グループ	教科・単元・題材名	取り上げるSDGs項目
農業班	作業学習 「命のサイクル～無駄のない農業生産を目指して～」	12. つくる責任 つかう責任 
工芸班	作業学習 「牛乳パックを捨てないために、わたしたちができること」	12. つくる責任 つかう責任 15. 陸の豊かさも守ろう  
手芸・縫製班	作業学習 「もったいないを活用しよう」	12. つくる責任 つかう責任 
総合サービス班	作業学習 「もったいないをなくそう！商品を大切にあつかう仕事」	12. つくる責任 つかう責任 
リサイクル班	作業学習 「おやつカプセル」	12. つくる責任 つかう責任 17. パートナーシップで目標を達成しよう  



R7年度 高等部研究 SDGs相関図



資源を生かす実践的な学習

・廃棄物の再利用・製品づくり

牛乳パックや不要な布を活用した製品づくりに取り組み、「捨てる前に、できることはないか」を考える機会となりました。

・食品ロスへの取り組み

食品ロスについて調べたり、自分たちでできる対策を話し合ったりしながら、日常の買い物や食生活を見直す学習となりました。



社会と関わる学びの広がり

・見学・体験・インタビュー活動

スーパーで働く方へのインタビューや作物の栽培・収穫・加工・品出し作業などを通して、社会の中で働くことの意味や役割を学びました。

・広報活動や話し合い活動

学んだことをまとめ、伝える活動を行うことで、考えを整理し、相手に分かりやすく伝える力も育っています。

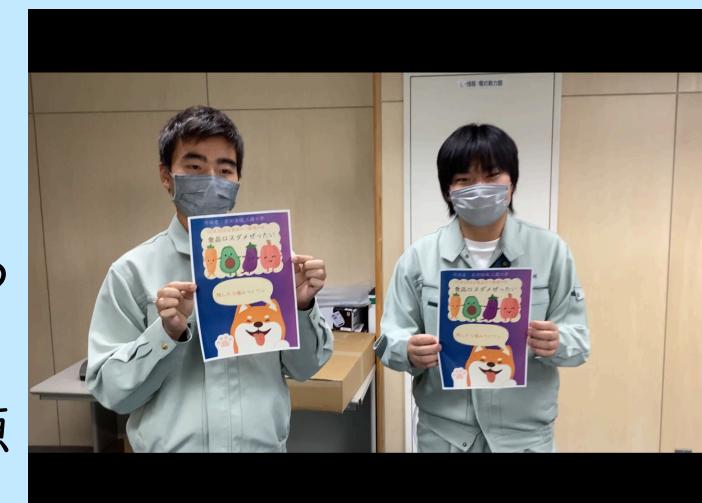


【『SDGsの視点を取り入れた授業づくり』の成果】



1. 実生活・卒業後のキャリア形成との接続（生かす力）

- ① 生徒が卒業後も自宅近くの牛乳パック回収場所を調べるなど、SDGsの力を日常生活で活用できるようになることを目指した授業づくりができました。
- ② 食品ロス削減に向けた啓発ポスターを校内に掲示することで、学習を実生活での行動へつなげようとする目標を設定した授業ができました。
- ③ 家庭の不要な物を活用するアップサイクル案を考えることを目標とし、実際に回収した資源を提示することで、生徒が具体的な製作物をイメージできるような授業を設定できました。



2. 地域社会・外部との連携による学びの深化（深め、つながり）

- ① 「弥生いこいの広場」からおやつカプセル作りの仕事を受け、責任感をもって取り組みました。作業工程だけでなく、地域の人との関わりや、援助依頼など生活に必要なスキルの獲得にもつなげることができました。
- ② 「命のサイクル」をテーマに、地域社会と協力した持続可能な農業を目指しました。規格外の作物を「弥生いこいの広場」の動物の餌として提供し、そこから動物の糞や落ち葉、近隣の喫茶店からのコーヒーグラウンズを堆肥化するなど、地域社会とのつながりによって『自分たちの活動が成り立っている』ことを生徒が知る機会を提供できました。
- ③ 外部講師を招聘することで、リサイクル方法や資源の大切さについて専門的な知識に触ることができ、生徒にとって良い緊張感を味わうことができました。



3. 知識の相互関連性の強化（深い学び）

- ① 動物の糞や落ち葉が「必要なものになる」という説明を通して、生徒は動物の糞を「汚いもの」から、農業生産にとって必要な資源であるという認識へと変わりました。また、選別作業で床に落ちた大豆を「捨てるもの」ではなく「動物の餌」として分別できたことは、学習した知識を具体的な行動に生かした成果と言えます。
- ② 作業体験を行った「スーパー・マーケット」と「学校」におけるSDGsの取組の違いに生徒自らが気付き、比較・整理することができたグループもあり、思考力・判断力を働かせた深い学びへつながっています。



学びを通して見られた生徒の姿

これらの学習を通して、生徒たちには次のような変化が見られました。

- 資源や物を無駄にしない行動
- 役割を意識し、責任をもって作業に取り組む姿
- 仲間と協力しながら課題を解決しようとする姿

体験を重ねる中で、社会の一員としての意識が少しずつ育ってきています。



まいこらむ



今年度、中学部3年4組のメンバーとなった私。生活単元学習で、ミニトマトやラベンダー、ミントを栽培し、野菜の生育を観察したり、乾燥させたミントなどを使ってサシェ（香り袋）を作ることにしました。

5月、プランターに苗を植えたときのことです。生徒たちは、苗ポットをゆっくりと逆さまにし、手を添えて、土と一緒に苗が下がってくるのを待っていました。苗が下がってくると、その感触を確かめるように手で受け止め、落とさないようにそっと穴の中に入れ、周りの土をやさしくかけていきました。私は、植え方について一言も説明していません。それでも生徒たちは、昨年度の「花いっぱい運動」で学び、体験してきたことを生かしながら、自然に作業を進めていたのだと思います。体験を通して身に付けた力は、時間が経っても失われることなく、必要な場面で発揮される。そのことを、改めて実感した出来事でした。

Itsuki Sato